

令和2年度 学校関係者評価

3.5以上～4：	適切
3以上～3.5未満：	ほぼ適切
2～3 未満：	やや不適切
2 未満：	不適切

I	教育理念・教育目的・教育目標	評価	
		評価点： 3.4	ほぼ適切
	教育理念、教育目的、 教育目標の設定・達成	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師養成所および創立や学校経営の特徴に言及した教育理念・教育目標を学生便覧に明記し、いつでも学生・職員が共有できるよう各自1冊持つようにした。 ・教育目標を学修の段階に沿って計画的に達成できるかという点では、年次修了毎の達成を示していないため今後の課題となる。 ・今年度の教務目標を、「1.充実した教育体制、2.看護師国家試験全員合格に向けた計画的な取り組み、3.学校の魅力を伝えるための広報活動、4.市内就職者の向上」と挙げた。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により講義や実習の予定を再三変更し、その中でも学生の学習機会の確保や看護や学校の魅力の発信などのために、時間や場所、設備など多くの調整を行った。そのため、目標を達成できたとは言い難いが、講義は講師の協力を得てのオンラインを導入したり、実習はシミュレーションを主にした学内実習へ変更するなど、感染防止を図りつつ授業継続が可能となるよう協力体制で取り組んだ。 	
II	学校運営	評価点： 3.1	ほぼ適切
	学校組織 学校会議等 教員適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営は、設置主体である市の事業計画に沿って運営方針を決定し執行した。学校の運営組織図は学生便覧に明示し、運営においては業務内容でチームを組織し計画に沿って運営した。 ・学校運営に必要な会議は定期・臨時で開催したが、予定時間を大幅に超過することが多く、効率的な運営ではなかった。今後学校の業務改善の一つとして取り組んでいく。 ・事務員について、教務事務を事務員(パート)1名が担当した。しかし、200余名(定員240名)の学生の教務事務を行うことは繁雑かつリスクが高い状況があった。新カリキュラム(令和4年度開始)では、専任教員の教務事務等の業務を支援する事務員を配置するようになっており、現在の教務事務の内容を整理・明確化し、基準に則した配置にする。 ・職員は、人材育成研修に参加するなどして、設置主体である市の職務を遂行した。 ・専任教員養は15名配置した。今後養成所として安定的に人材確保を行っていくには、専任教員の年齢層の偏りや、看護管理者研修や教務主任研修へ参加できていないことが課題である。 	

III	教育活動	評価点： 3.0	ほぼ適切
	教育課程	評価点： 3.1	ほぼ適切
	実習	評価点： 3.0	ほぼ適切
	授業関係	自己評価点： 3.0	ほぼ適切
	学籍管理	評価点： 3.2	ほぼ適切
	教員の研究、成果の発表	評価点： 2.5	やや不適切

・ 学生便覧で、科目の考え方や、単元の構成を示し、毎年シラバスの見直しもしている。また、単位履修については 学生便覧で必要な出席時間数や欠席時の対処などを明示した。また年度初めに科目に使用するテキストや終講試験とその配点などを示し説明し、成績が低迷している学生に対しては、個別に面談を行い、履修の確認や学習への取り組みが自己で行えるよう指導した。

・ 今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全実習単位数の約3割を学内実習へ変更した。学内実習では教員が患者（対象者）となり実践したが、コミュニケーションや状況アセスメントと実施という点で学習の難しさがあった。これを補い就職後の実践につねげる目的で、卒業後に看護技術の演習会を実施した。

・ 学生の卒業時満足度調査では、実習に関わる項目は全ての実習を臨地で行うことができた前年の結果と大差はなかった。これは、臨地では難しい援助の実施中にやり直すことや、グループメンバーと協議したり教員とリフレクションする時間が比較的確保でき、思考することができたことが一因でないかと考える。

・ 臨地実習時は指導者と連携しながら指導・支援を行った。課題としては、実習指導者や教員の役割の明確化や学習場所などの環境、リフレクションの時間の確保などがある。実習期間中の学生の変化や学びをタイムリーに捉え、承認・指導することが必要であるため、実習施設の業務が複雑な中でも指導者と教員がコミュニケーションを図り連携していきたい。

・ 授業(実習・講義・演習)の評価は学生と共有している基準の基づき行った。臨地実習においてはルーブリックを作成し使用した。講義においては、終了後に学生へアンケートも行っているが、その結果を次に活かすことが不足していたと評価する教員もあり、今後の課題となる。

・ 講義については、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面・多人数を避けるために課題へ代替したり、オンラインへ変更するなどしたが、卒業時の満足度調査では一昨年とほとんど差はなく、「ほぼ満足」との結果であった。

・ 学生からの要望にその都度応えるよう努めたが、卒業時の満足度調査では、教員の学生への対応(指導や評価の仕方など)や教員の言動の不一致を指摘する意見があり、各自自身の関わり方を省みることも必要である。

・ 学籍管理システムを導入しており、権限の区別をして適切に取り扱った。

・ 今年度は終講試験から成績の確定入力までのリスクを洗い出し、マニュアルを作成を行った。

・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり教員の研究活動はできなかった。研究への取り組みは必要であり、研究的視点を養うために他の教員が担当する授業に入るなど現状でも可能な活動はあるため検討していく。

IV	入学・養成所の情報提供	評価点： 3.1	ほぼ適切
	<p>入学に関すること</p> <p>本校の特徴や入学に関する情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・教育目的との一貫性をもった入学者選抜の点で明確化が必要であった。今後アドミッションポリシー(AP) をカリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)と共に明示していく。 ・市立の看護学校として、本市の看護師定着に向け、入学者の半数を本市就職を希望する者の推薦枠にして入学試験を実施した。 ・入学情報に関しては、今年度市のホームページの見出しを目に留まりやすいように変更したり、学校案内をPDF化しリンクさせるなどした。広報紙や高校のガイダンス等でも情報発信した。 	
V	学生支援	評価点： 3.2	ほぼ適切
	<p>学習環境及び学習支援</p> <p>生活支援</p> <p>国家試験合格支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学生に対して、オリエンテーション期間を設定し、教育課程をはじめ学校生活全般を説明した。学生便覧でも学校生活に関するルールや留意点を明示した。 ・学生が自主的に学べる環境としては、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書室も授業に使用するなど決して好ましい環境とは言えない状況であった。しかし、今年度オンライン授業の導入を機にWi-Fiを設置し、パソコンを追加するなど整備を進めインターネットを利用した学習ができるような環境になった。 ・卒業生への満足度調査では、学習環境に関して「満足」「ほぼ満足」が全体の92%であり、学生の不便さはさほどなかったと思われる。しかしこの調査は3年生のみに実施したものであり、学生全体でみるには、1・2年生も調査を実施する必要があった。同調査における悩み相談・サポートの満足度において、実習・学生生活において「不満足」と回答した学生が各1名いた。少数ではあるが、そのような思いでいる学生の存在を意識し、学生の反応を捉えて関わるよう努めていく。 ・悩みや相談にはカリキュラム担当をはじめ、実習などで関わる他の教員も対応した。体調や学習の不安がある学生に対しては、面談を繰り返し行ったり、保護者と連絡をとり合うなどの支援を行った。 ・学校カウンセリングは1回/月に予定されており、平均1人/月程度受けてた。 ・看護師国家試験合格支援は、3年次は学生と教員でグループを作り、看護師国家試験前の新型コロナウイルス感染防止のため自宅学習期間中も毎日オンラインでの支援を行った。 	
VI	就職・進学	評価点： 3.1	ほぼ適切
	進路決定	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムとの面談や、校長との就職の相談や、模擬面接などの支援を行った。 ・市内就職を勧めると共に、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮した選択や受験への向かい方などの助言や指導を行った。 ・学科・実習共に卒業認定会議において到達状況を確認しているが、進路の状況と併せて、教育理念や目標との一貫性まで分析まではできていない。 	

VII	卒業生の把握	自己評価点： 2.8	やや不適切
		<p>・就職後の卒業性の評価は、校長が施設との情報交換や、実習の折に師長やスタッフから直接聞くこともあり教員間で共有した。しかし、その評価を意図的に教育活動に活かすまでには至らなかった。今後は、実習施設との会議の際に情報交換をすることも行っていきたい。</p>	
VIII	地域社会への貢献	自己評価点： 2.9	やや不適切
	<p>地域との連携と社会への情報発信</p> <p>実習施設との連携</p>	<p>・市内就職者を増やすことが地域の一番のニーズと認識し、「市内就職75%以上」を目標に進路相談の際は助言した。看護師国家試験合格は100%であり、看護師国家試験は市内就職は74.3%、進学した学生においても卒業後は市内就職を目指しており、地域に看護師を増やという点で社会貢献できたと言える。</p> <p>・地域への貢献度を測るものとして「市内就職就職率」は必要であるため、次年度より項目に追加し、継続的に評価していく。</p>	
IX	ボランティア活動	評価点： 2.6	やや不適切
		<p>・学生が地域のニーズに応え市内就職を希望するためには、地域貢献活動(ボランティア)の機会が有効であるが、今年は新型コロナウイルス感染症によりボランティアもできない状況であった。今後は接触せずにできるボランティアも検討したい。</p> <p>・学生の「保安環」という省エネルギーや環境問題の解決に貢献する系の活動で、ペットボトルのキャップ集めを行い、2名分のワクチンに交換し途上国へ送ることができた。</p>	
X	国際交流	評価点： 1.6	不適切
	国際的な視野を広げるためのシステム	<p>・国際的視野を持つための科目は設定しておらず、看護管理の中で教授している。英語は各学年次に30時間1単位ずつ設定しており、米国軍駐留の街としての歴史がある本市に設置された本校のカリキュラムの特徴である。外国人研修制度や、本市では大型観光船の積極的誘致による大型観光船寄港の増加などもあり米国のみではなく、様々な国の人々と関わる機会が増えてきている。そのため、就職後も看護活動で関わる可能性は高いため、国際的な視野を広げる教育活動が必要である。市内就職を推進していることもあり、留学や海外での看護活動を支援する体制はないが、市内の国際大学の同世代の学生との交流など、学生が関心をむけやすい学習方法を検討したい。卒業後に海外青年協力隊で活動した卒業生もおり、国際的な視野をもつことは、学生の看護師になる動機づけや、卒業後のキャリア支援にもつながることである。</p>	